

健康維持・増進とケアを分野連携で 多面的に考える授業の提案 —栄養学分野—

愛知学院大学 心身科学部 健康栄養学科 酒井映子

1. 分野連携による小児糖尿病サマーキャンプの事例

- ①分野連携の学生ボランティア活動の**意義と目的**
- ②分野連携の学生ボランティア活動の**評価方法**
- ③分野連携の学生ボランティア活動の**単位認定制度**
- ④分野連携の学生ボランティア活動の**教育効果**

2. 分野連携のアクティブ・ラーニング授業の課題

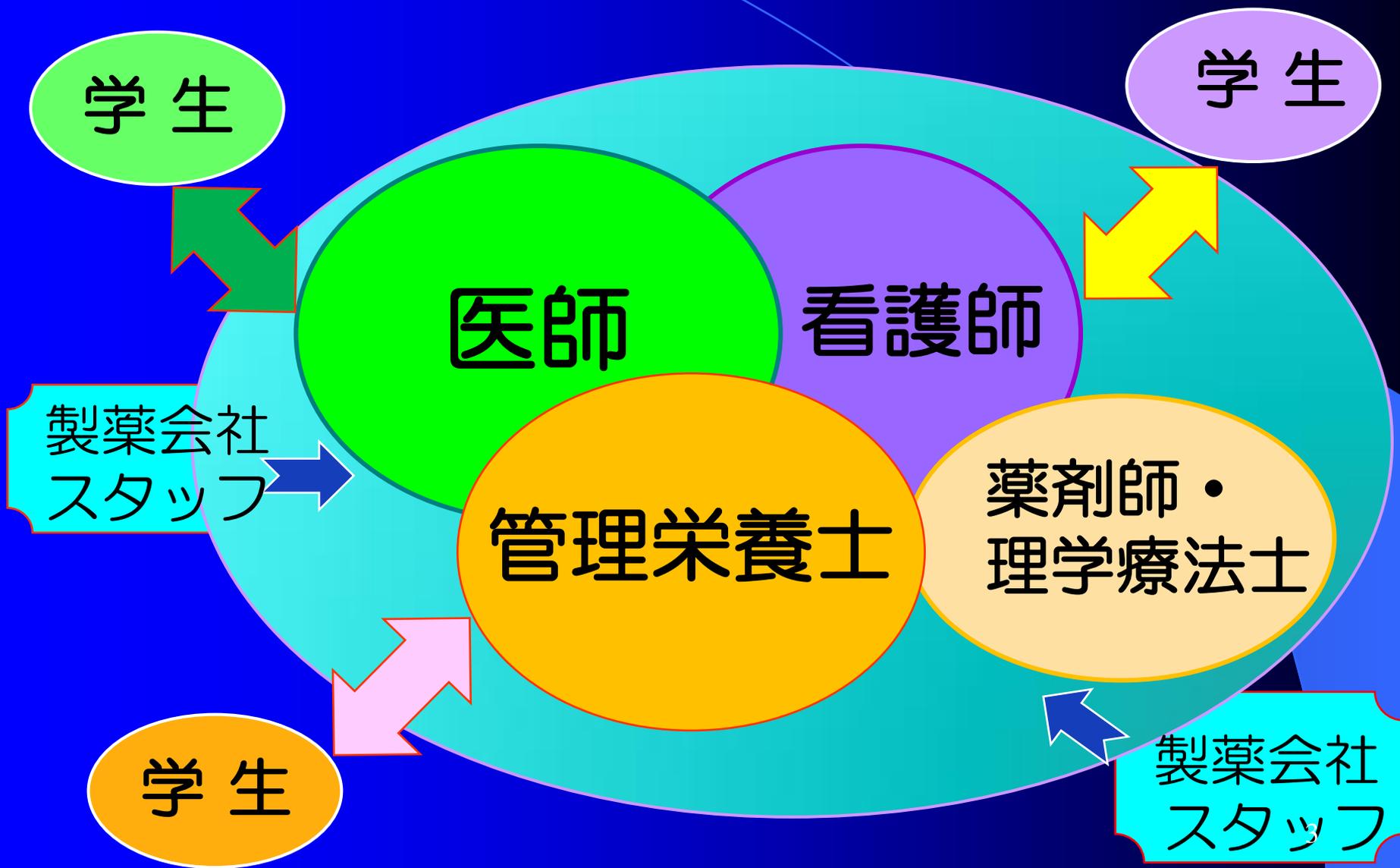
- ①管理栄養士コア・カリキュラムにおける関連職種との連携
- ②分野連携のための組織づくり（大学・関連機関等）
- ③分野連携授業のための科目調整・統合などの仕組み

1. 分野連携(医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士) によるアクティブ・ラーニングの紹介 ー小児糖尿病サマーキャンプー

福山大学 生命工学部 石崎由美子

- ①分野連携の学生ボランティア活動の意義と目的
多職種連携に必要とされる能力（専門職能力、医療・保健・福祉に共通する能力、協働的能力）を養う。
- * 糖尿病の小児の治療を通じた各分野の**専門性の明確化**
 - * 専門性を活かした卒業後の**社会貢献への自覚の芽生え**
 - * チーム医療の体験を通じた**学習意欲の向上**
 - * 卒業時まで身に付けるべき**専門知識と技術の全体理解**
 - * 患児個々の病態の把握と治療を通じた**人間理解の深化**
 - * 患児からの**ナラティブ情報も重視する医療者の育成**
 - * 継続的活動を通じた情報（企画・運営など）共有による
活動内容の進展

小児糖尿病サマーキャンプの組織



目的

患儿

食品選択能力、
低血糖時の対応
など基礎知識を
身につけさせる

自立の 促進



②分野連携の学生ボランティア活動の評価方法

栄養系学生の評価方法

パフォーマンス、ルーブリック、ポートフォリオ等の評価なし

- 参加学生の感想文製本
- ボランティア活動の記録
- 次年度の活動に向けた反省会

医学系学生の評価方法

パフォーマンス、ルーブリック、ポートフォリオ等の評価なし

- ボランティア活動の記録

③分野連携の学生ボランティア活動の単位認定制度

栄養系学生の単位認定制度「特別単位」

- (1) ボランティア活動30時間に対して「特別単位」1単位認定
 - (2) 各年度に認定される「特別単位」の上限は3単位
 - (3) 卒業までに認定される「特別単位」の上限は4単位
- 参加学生のほぼ全員が「特別単位」申請書を提出

医学系学生の単位認定制度「初期体験学習科目」

参加学生は単位取得を目的としないため、ボランティア単位の申請を担当医師に提出していない状況

教育目標Inter Professional Work(多職種医療人協働)の主旨に賛同し、かつ小児医療に興味を持つ学生がボランティア参加(6年間参加する学生あり)

④分野連携の学生ボランティア活動の教育効果

栄養系学生

- (1) 患児の治療の実際を体験し、何か患者の力になりたいという意識の高揚、国家試験合格への意欲も高くなる。
- (2) 専門職(医療機関、学校の栄養教諭等)への就職率が高い。
- (3) 卒業後は各施設の管理栄養士となり専門スタッフとして参加し、後輩への育成に寄与する。

医学系学生

- (1) 小児科、内科をめざすようになる学生が多い。
- (2) 卒業後は専門職(医師・看護師)として参加。

多職種がそれぞれの専門領域の仕事をこなし、相互理解のもとで連携プレーをする「チーム医療」を学び、患児への支援を通じた専門性と豊かな人間性の涵養の場となっている。

2.分野連携のアクティブ・ラーニング授業の課題

①管理栄養士コア・カリキュラムにおける 関連職種との連携

管理栄養士課程コア・カリキュラム2015

EU (Education Unit) : 1EU=15分	講義 A	講義 B	実習 a	実習 b
I 全学を通じて学ぶ	—	—	—	—
2. ヒューマニズムを身につける	—	—	—	—
II 管理栄養士を目指す気持ちを育む導入教育	88	0	0	0
1) 管理栄養士の使命や役割、関連職種との関わり	36	0	0	0
III 専門科目を学ぶ前に	14	113	6	8
IV 専門基礎科目	974	151	504	630
V 実践専門科目	972	104	579	298
VI 総合的な力量を高める	0	0	54	160
1) 実践活動を目指して	0	0	0	80
2) 課題の発見と解決への態度	0	0	0	80
3) 総合演習	0	0	54	0

注) A,a : 必修教育内容 B,b : 参考教育内容

分野連携アクティブ・ラーニング推進のための カリキュラムの課題

*分野連携アクティブ・ラーニングの場としての臨地実習は180時間であり、国際的な時間数（約500時間）と比較して著しく少ない状況にある。受け入れ施設側と養成施設側の双方の諸条件により確保が難しい現状にある。

*大学内における分野連携アクティブ・ラーニングのためのカリキュラム改革が進まず、社会の変化の速さに対応できていない。高度化、複雑化、多様化している栄養学分野の専門職として社会のニーズに応えるために、科目統合や科目横断的な教育のあり方、1コマ90分の枠にとらわれない時間数の使い方など、全学で取り組む必要がある。

*カリキュラム改革のための組織を効果的に運営する機動力が必要となる。

② 連携のための組織づくり

アクティブ・ラーニングのための AGUの学びのネットワーク

社会のニーズに応えられる教育をめざして

地域連携センター
企業・行政等との連携のための機関

大学院（専門職業人育成）

TA

経営・経済・商学部
名城公園キャンパス

専門展開科目
他学部履修
専門基幹科目
初年度教育

心身科学部
日進キャンパス

専門展開科目
他学部履修
専門基幹科目
初年度教育

歯学部・薬学部
補元キャンパス

リカント期

実現期
4年次

強化期
2~3年次

準備期
1年次

アクティブ・ラーニング強化のための AGU 学びのネットワーク

教育体制強化のための「学びのネットワーク推進委員会」

③分野連携授業のための 科目調整・統合などの仕組み

※ 愛知学院大学心身科学部健康栄養学科では総合科目（選択演習科目、授業内容の自由度が大きい科目）として1年次の「健康栄養学入門」と4年次の「健康管理総合演習」が開講されている。

健康栄養学入門：アドバイザー教員毎に入門教育として調べ学習、まとめ学習、発表等を行う。4年生がLAとしてサポートする。統一テーマは「メタボリックシンドローム」「肥満と栄養」「栄養サプリメント」など。

健康管理総合演習：歯学部附属病院と連携した栄養管理プロセス（栄養アセスメント、栄養診断、栄養プログラム、モニタリング、評価）の実際を習得するため、患者に対して医師、管理栄養士、学生が6ヶ月間にわたって個別栄養教育を実施。両科目ともに他学部（歯学部、薬学部）の学生間の連携授業の実施には至っていない。

③分野連携授業のための 科目調整・統合などの仕組み

科目調整・統合等の科目横断的な授業はなぜ実現できないか。

免許取得のための厚労省の指定科目、国家試験対策科目等で変更する余地が無い。教員の分野連携アクティブ・ラーニング促進の意識が低い。教職員は授業改革のための精神的時間的な余裕が無い。

***健康増進・ケアなど多職種連携が行い易い課題から開始**

***ボランティア活動の単位化のメリット・デメリット**

メリット：カリキュラム、時間割編成等を変更することなく、土日や休暇期間に活動できる。教員のボランティア活動では共通意識が高いため分野連携が行い易い。目的意識を持った意欲の高い学生が参加する。単位化により学生の実践能力を総合的に評価できる。

デメリット：単位取得目的のボランティア活動参加により、ボランティア本来の目標が達成し難くなる。ボランティア活動に満足して終わる可能性が高い。多職種連携の評価基準の作成は専門分野によって異なるため合意形成が難しい。